

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0866
 住 所 川崎区水江町4-3
 氏 名 日東亜鉛株式会社
 代表取締役社長 本野 晃司 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	日東亜鉛株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区水江町4-3		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	23	非鉄金属製造業
主たる事業 の内容	鋼管・鋼構造物に対する溶融亜鉛めっき業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	2,444	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019 年度 ~ 2021 年度 (報告年度 2021 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 5,283	(実) 5,340	(実) 4,654	(実) 4,789	(実) 5,125
	(調) 5,321	(調) 5,384	(調) 4,683	(調) 4,809	(調) 5,159
削減率		(実) -1.1 %	(実) 11.9 %	(実) 9.4 %	(実) 3.0 %
		(調) -1.2 %	(調) 12.0 %	(調) 9.6 %	(調) 3.0 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

原単位等の活動量	めっき量				原単位等の単位	t-CO2/1000 t
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値	
	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)		
排出量原単位等の値	142.7	143.9	150.6	134.5	138.4	
活動量の値	37	37.1	30.9	35.6	-	
排出量原単位等の削減率		-0.8 %	-5.5 %	5.7 %	3.0 %	

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	製品の一部が多品種、小ロットとなり生産準備等の待ち時間が増えた。生産効率向上を図るために、前処理槽の設定温度を上げております。そのため原燃料を使用した為、温室効果ガス排出量の増加となり、また原単位の削減ができなかった。	
第2年度	製品生産量が昨年比で-16.8%減少となった事、及び使用する電力がIηηη導入で減少し、蒸気も減少したため、温室効果ガス排出量の減少となったが、原単位は生産量減少のため増加した。	
第3年度	製品生産量が昨年比で+15.3%増加となった事で温室効果ガス排出量の増加となった。使用する電力がIηηη導入で減少が継続した。そのため原単位は生産量増加のため減少した。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		第1年度、2年度は生産量減少影響により、削減率が悪かった。第3年度にEMSの効果、生産量増により、排出量、排出量原単位ともに目標値を達成することができた。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		根本対策となる、熱損失防止、温度管理を見直したい。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>①事務所、厚生棟の天井照明をLEDにする。 ②工場棟の天井照明の残りの1/3をLEDにする。 ③工場の大型電動モーターをインバーター制御とし、電気使用量の削減をする。 ④エネマネを導入、設置し、デマンドの削減、電気使用量の削減をする。</p>
<p>第1年度</p>	<p>①事務所、厚生棟の天井照明をLEDにした。(2019.10) ②工場棟の天井照明の残りの1/3をLEDにする。(2019.10) ③工場の大型電動モーターをインバーター制御とし、電気使用量の削減をする。(2020.2) ④エネマネを導入、設置し、デマンドの削減、電気使用量の削減をする。(2020.2)</p>
<p>第2年度</p>	<p>①事務所、厚生棟の天井照明をLEDにした。(2019.10) ②工場棟の天井照明の残りの1/3をLEDにする。(2019.10) ③工場の大型電動モーターをインバーター制御とし、電気使用量の削減をする。(2020.2に導入)→1年間使用したところ、前年比-16.6%の電気使用量となった。 ④エネマネを導入、設置し、デマンドの削減、電気使用量の削減をする。(2020.2)→デマンドが679kw→550kw削減となりました。</p>
<p>第3年度</p>	<p>①事務所、厚生棟の天井照明をLEDにした。(2019.10) ②工場棟の天井照明の残りの1/3をLEDにする。(2019.10) ③工場の大型電動モーターをインバーター制御とし、電気使用量の削減をする。(2020.2に導入)→1年間使用したところ、前年比-16.6%の電気使用量となった。 ④エネマネを導入、設置し、デマンドの削減、電気使用量の削減をする。(2020.2)→デマンドが679kw→550kw削減となりました。 ⑤デマンドが550Kwを維持できております。</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>計画通りにエネマネ(EMS)の導入ができて、その効果が出たことにより、第3年度にいい効果とすることができました。それを現在も継続しております。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	○
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	×
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	×

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	廃棄物の排出量の把握、減量化を図る。
第1年度	廃棄物の排出量の把握を行った。 第一年度 廃塩酸：957 t 脱水汚泥：208 t (めっき量：37089 t) 基準年度 廃塩酸：1112 t 脱水汚泥：187 t (めっき量：37000 t)
第2年度	廃棄物の排出量の把握を行った。 第二年度 廃塩酸：736 t 脱水汚泥：159 t (めっき量：30862 t) 第一年度 廃塩酸：957 t 脱水汚泥：208 t (めっき量：37089 t) 基準年度 廃塩酸：1112 t 脱水汚泥：187 t (めっき量：37000 t)
第3年度	廃棄物の排出量の把握を行った。 第三年度 廃塩酸：796 t 脱水汚泥：165 t (めっき量：35595 t) 第二年度 廃塩酸：736 t 脱水汚泥：159 t (めっき量：30862 t) 第一年度 廃塩酸：957 t 脱水汚泥：208 t (めっき量：37089 t) 基準年度 廃塩酸：1112 t 脱水汚泥：187 t (めっき量：37000 t)

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	5,283 t-CO ₂	5,340 t-CO ₂	4,654 t-CO ₂	4,789 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	2,654 KL	2,675 KL	2,362 KL	2,444 KL
事業所の数	1	1	1	1

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
日東亜鉛株式会社 川崎工場	川崎市川崎区水江町4-3	5,283	5,340	4,654	4,789

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度